



なきごえ



1992

12



(撮影：村田 行雄)

もくじ

- 2 — New Face オウサマペンギンの赤ちゃん
- 3 — 動物と私 天王寺動物園—古い古い思い出—(藪内正幸)
カバーウォッチング クロサイ
- 4 — ツキノワグマの生態と人間との共存への道(青井俊樹)
- 6 — 動物園の教育活動、環境教育をめざして(大野尊信)
- 8 — グラフZOO 動物園のおじさんのお話
- 10 — キーパーズアイ
- 11 — ZOO DIARY

カバーウォッチング

クロサイ ウマ目 サイ科

Diceros bicornis

サイの角は漢方薬として使われるほか、短剣の柄としても使われるので密猟が絶えず、絶滅に瀕しています。日本の動物園では、天王寺、安佐、東山の3園の間で雄の交換や移動を行ない、繁殖計画を推進中です。

(撮影：永田健一)

1992年 目次

通刊317~328号

なきごえNo.328付録
第28巻 1~12は発行月

表紙

撮影者名

| | | | |
|--------------|------|-------------|-------|
| 1 ニホンザル | 大野尊信 | 7 ヨウスコウワニ | 竹田正人 |
| 2 アカハシリウキウガモ | 竹田正人 | 8 ソウシチョウ | 長瀬健二郎 |
| 3 カバ | 大谷直樹 | 9 チンパンジー | 中川哲男 |
| 4 シマスカンク | 榊原安昭 | 10 ブラッサグェノン | 吉本昌俊 |
| 5 レア | 森本委利 | 11 エゾヒグマ | 大野尊信 |
| 6 ビクトリアコアラ | 早川 篤 | 12 クロサイ | 永田健一 |

動物と私

執筆者名

| | |
|---------------------------|------------------------|
| 1 増井 憲一 龍谷大学非常勤講師 | 7 中浜 稔 じゃん友会会長 |
| 2 和多田 勝 エッセイスト | 8 野崎 敏生 小谷城郷土館、評議員 |
| 3 大谷美和子 児童文学作家 | 9 戸田 杏子 フリーライター、食文化研究家 |
| 4 中村 一 恵 神奈川県立博物館専門学芸員 | 10 前田喜四雄 奈良教育大学助教授 |
| 5 稲田 信 廣 フィールドワーカー | 11 松岡 史 朗 動物写真家 |
| 6 藤岡 正 博 農林水産省農業研究センター研究員 | 12 藪内 正 幸 イラストレーター |

お目見え動物・New Face

撮影者名

| | |
|--------------------------|--------------------|
| 1 トカラヤギのメスの赤ちゃん誕生 永田健一 | 7 巣の中は大にぎわい 宮下 実 |
| 2 私、フタコブラクダの「アキコ」です 森本委利 | 8 シマウマの赤ちゃん 永田健一 |
| 3 ブラジルバクの赤ちゃん誕生 吉本昌俊 | 9 フサオネズミカンガルー 堀内智生 |
| 4 袋からこんにちは 早川 篤 | 10 レアの赤ちゃん 早川 篤 |
| 5 ジャガーの赤ちゃん誕生 竹田正人 | 11 チュウゴクオオカミ 大野尊信 |
| 6 エミューのヒナ 森本委利 | 12 オウサマペンギン 村田行雄 |

動物園グラフ・グラフZOO

撮影者名

| | |
|----------------------------|-------------------------------|
| 1 「ニホンザル」ガンバレ! チョウシュウ 大野尊信 | 7 鳥のくちばしいろいろ 前田 茂 |
| 2 わたしモモコで一す 竹田正人 | 8 今年生れの赤ちゃん 森本委利 |
| 3 どうぶつ達のマイホーム 大谷直樹 | 9 新チンパンジー・オランウー タン舎の完成まで 竹田正人 |
| 4 猛禽類 吉本昌俊 | 10 スナップ サマースクール 前田 茂 |
| 5 尻取りクイズ 中川哲男 | 11 アメリカバク成長記録 吉本昌俊 |
| 6 コアラ誕生 野口秀高 | 12 動物園のおじさんのお話 永田健一 |

特別寄稿

執筆者名

- | | |
|-------------------------|----------------------------|
| 1 1992年壬申(みずのえ・さる)の年に想う | 広瀬 鎮 (名古屋学院大学教授) |
| 2 モンゴルのげっ歯類 | 川道 武男 (大阪市立大学助教授) |
| 3 フラミンゴの湖 | 柿沢 亮三 (山階鳥類研究所 資料室長) |
| 4 チーター親子の悲劇 | 内山 晟 (動物写真家) |
| 5 時代が求める動物愛護の方向 | 牧野 俊雄 (動物管理センター所長) |
| 6 リヤカーマン、アフリカを歩く | 永瀬 忠志 (冒険家) |
| 7 その後のアメリカの生態展示 | 若生 謙二 (日本展示学会会員, 日本造園学会会員) |
| 8 キツツキのいない島で | 山岸 哲 (大阪市立大学, 理学部教授) |
| 9 野生チンパンジーの母と子の絆 | 松沢 哲郎 (京都大学霊長類研究所助教授) |
| 10 耳を澄ませば | 土井 敏晃 (住職) |
| 11 イヌワシのためにできること | 藤田 雅彦 (日本イヌワシ研究会, 獣医師) |
| 12 ツキノワグマの生態と人間との共存の道 | 青井 俊樹 (北海道大学農学部和歌山地方演習林林長) |

連載

執筆者名

- | | | | |
|-------------------------|---------|-------------------|--------|
| キーパーズアイ | 公園・花だより | | |
| 2 クロサイの泥パック美容法 | 農本 武志 | 3 ⑥花壇と噴水, 催展示場 | 山本 貞幸 |
| モモイロペリカンの別離とペアリング | 久田 治信 | 8 ⑦河底池, 水生花園, 茶臼山 | 山元 貞幸 |
| 7 巣の中はヒナでいっぱい | 久田 治信 | 獣医室から | |
| ブタオザルは子育てじょうず | 岡田 博之 | 5 ⑧なぜ毛が抜ける | 森本 委利 |
| 12 餌を与えないで | 土谷 正道 | 10 ⑨引越しは引越しの | 森本 委利 |
| アマサギの死 | 西田 雄之 | 動物なんでも相談室 | |
| ケンちゃんの好きやねん動物園 | | 1 | 吉本 昌俊 |
| 4 シュバシコウの巣づくり | 松葉 健 | 6 | 長瀬 健二郎 |
| 9 新チンパンジー・オランウータン舎の完成まで | 松葉 健 | 11 | 森本 委利 |

飼育観察記事

執筆者名

- | | |
|-----------------------------------|--------------------|
| 1 サル山のサル(ボスザルはいるか?) | 大野 尊信 |
| 2 天王寺動物園のオランウータン一家 | 原田 勉 |
| 4 春になればキジ舎は | 西田 俊広 |
| 6 コアラの子育て | 早川 篤 |
| 7 飼育下の動物行動調査とその解析へ/ニホンザルの配偶関係を調べる | 大野 尊信, 岡田 博之, 早川 篤 |
| 8 アムールトラの人工哺育 | 正木 時雄 |

紀行・記録・その他

執筆者名

- | | |
|-------------------------|--------|
| 3 退職にあたって-33年を振り返って | 西野 均 |
| 3 退職にあたって-動物と共に35年 | 楠本 信治 |
| 5 ワシントン条約について | 長瀬 健二郎 |
| 9 新しいチンパンジー・オランウータン舎の完成 | 中川 哲男 |
| 10 サマースクールの子供たち | 榊原 安昭 |
| 11 動物の餌いろいろ | 榊原 安昭 |
| 12 動物園の教育活動, 環境教育をめざして | 大野 尊信 |

動物園日記

1~3 榊原 安昭

動物園ニュース・ZOO DIARY

1~12 森本 委利

||||| 動物と私 |||||

天王寺動物園—古い古い思い出—

小 さな頃から動物好きだったボクは、よく動物園へ行きました。

当時、大阪に住んでいたもので、行き先は殆んど天王寺動物園。

天王寺動物園といえば、父から“昔、(戦前?)リタ嬢というチンパンジーの才媛(猿?)がいた”という話を聞いていました。リタ嬢が我が友人のように、えらくほめていたものです。ボクが動物園へ行くようになった頃も、たしか、ホッキョクグマの飼育場の奥の方に、彼女の像が立っていたのを記憶しています。

動物園通いがはじまってから、一番興奮したのは、ゾウが来園した時でした。早速ボクも母に連れられて、胸をときめかせ、あこがれのゾウに会いに出かけました。

ゾウ舎の前へ行ってみると、もうそこは人、人、で、ゾウのゾも見えません。最近でいえば、パンダ来日の時のような、といえいいでしょうか。しかし、その時は、見物人を整理する係の人もないので、ゾウ舎のまわりをとりかこんだ多勢の人が、ただワイワイ、という状態でした。

母が、さあ、自分で前の方へ行行って見てきな

← オウサマペンギンの赤ちゃん ペンギン目
ペンギン科

10月6日に孵化しました。両親と同居している3羽のオウサマペンギンにとっても久しぶりのヒナなので大変な人気者になっています。(撮影:村田行雄)



藪内 正幸さん
(イラストレーター)

さい”と背中を押すのですが、小心者のボクは、人波を見ただけで、迷子になってしまう”と思いきりこんでしまい、母の手をしっかりとぎって離さなかったもので、その日はちゃんとゾウを見ることなく、家へ戻ったのです。

大 きくなるにつれ、1人で行ったり、友人達をさそったりと、ボクの動物園通いは続きました。

その日も、ひよいと思いついて、動物園へ行ったのですが、思いもかけぬ動物を目の前にして、びっくりしてしまいました。オリックスが2頭いたのです!

その頃、ボクは動物界のスター、猛獣”やゾウにあこがれていましたが、アンティロープの仲間も好きだったのです。なかでも、本の絵で見たオリックスが大好きだったのです。2本のまっすぐに伸びた角、灰色の体、独得の顔のまよう——そのオリックスが、ボクの前で動いている!。早速、帰ってからノートに、日本初渡来のオリックスの形や色を記録しました。

2年後に、オリックスに二世が誕生したとの新聞記事を読み、会いに行きました。赤ん坊は、親とちがって、明るい茶色で、顔にはボンヤリと親と同じようなまようが現われていました。

高 校に入った頃だったでしょうか。阪神パークでは、ヒョウとライオンを同居させて、”レオボン”誕生をめざしていました。少しおくれで、天王寺動物園は、“タイゴン”づくりに、トラとライオンを同居させました。結果は、タイゴンよりも実現がむつかしいといわれていた”レオボン”が、この世に生を受けたのです。

高校を卒業と同時に東京住いとなり、ボクの動物園通いは、天王寺から上野動物園に変わりました。

ツキノワグマの生態と人間との共存への道

青井 俊樹

北海道大学農学部
和歌山地方演習林長

かなり以前の話です。それまでは北海道でずっとヒグマの調査をしていた私はひょんなきっかけから何人かで福井県との県境も間近い岐阜県奥の山奥の根尾谷というところでツキノワグマの生態調査をすることになりました。根尾谷の一番奥にある廃村に残る大きな合掌作りの農家をベースに、高い山ではまだ1m近い雪の残る春早くから調査を開始していました。残雪もほぼ解け終わった5月のはじめころのある日のことです。ブナの芽ぶき前線が県境の尾根のすぐ下まで上がって来ていました。芽ぶき前線というのは、ブナの赤っぽい冬芽が春になって徐々にふくらんでくると、萌え黄色に変わらだし、その部分が遠くから見ると山肌にうす緑の直線を引いたようにみえるので私たちはそう呼んでいました。その前線は4月のはじめ頃廃村のある辺りからはじまり、春の深まりとともに山の斜面を上昇して頂上部のブナの芽が展開するのがだいたい5月の中旬頃です。その日も私はいつもと同じようにツキノワグマの痕跡を求めて福井県との県境まで林道を登っていました。所々で立ち止まっては、谷をへだてたはるか向いの斜面を双眼鏡でなめるように観察していました。視野がちょうど芽ぶき前線にさしかかった時です。太いブナの間隔くらいの枝に黒く丸い点が見えるような気がしました。最初はあまり気にとめることもなく双眼鏡を横にすべらしました。しかし再び、視野がそのブナに戻ってくると、先ほどの黒い点がなんと枝先に移動しているではありませんか。実はその黒い点は、ツキノワグマが芽ぶいてきたブナの新芽を食べている姿だったので、それが



ツキノワグマの直接観察

私のツキノワグマとの初めての出会いでした。しかし直線にして700mくらいありましようか、いささか遠すぎてそのクマの特徴や行動がよくつかめません。そこで私は大急ぎで今登ってきた林道を駆け下り、ベースから倍率の高い望遠鏡を取ってきてじっくりと観察することにしました。

色の真っ黒なそのクマは、よくあんな先まで行って枝が折れないとあきれくらしい、細い枝先にいました。自分の重さで乗っている枝が大きくしなるのをもとせせず、前足で枝を口の所まで引き寄せてはブナの新芽を片端から食べているのでした。その時記録を取ったフィールドノートを後でみると「クマ、もくもくとブナの新芽を食べる」と書いてあり我ながら苦笑してしまいました。それほど真剣に次から次へと枝を移っては食べていました。そういった行動が1時間くらい続いたのでしょうか、このクマは木の幹と二股になった枝の根元に移動して丸くなるとそのまままったく身動きをしなくなりました。どうやらお腹一杯になったので昼寝を始めたようです。

毎日きまって午後になると木に登ってはブナの新芽を食べ、食べ飽きると枝の上で丸くなって昼寝する、そんな行動が連日観察されました。観察をはじめて4日目のことです。いつものように三脚にすえた望遠鏡をのぞいてこのクマを観察している時でした。その日も同じブナの木に登っている新芽を食べている例のクマの横にもう一つ小さな黒い点があるように見えました。観察を続けているとその黒い丸い点が突然長細くなったと思ったとたん、幹を走り下りたのでした。その時初めてわかったのですが実はこのクマは親子連れで、仔グマが幹を走り下りたのでした。仔グマは一頭で、ネコ位の大きさからするとその年生まれの当歳仔のようです。それまでの3日間この仔グマはどこにいたのでしょうか。きっと母親が登っている木の下でじっとしていたのかもしれない。仔グマが幹を走り下りると、母グマも後を追うように下りて行きました。ツキノワグマが木登りじょうずであることはそれまでも知っていました。そして下りるときも尻からズルズルと滑りながら下りるとばかり思い込んでいた私は、その時目の前でくりひろげられた光景に愕然としました。なんとそのクマは垂直な幹を頭から下りて行ったのです。前足でブレーキをかけながら。それまでも私は幹につけられたツキノワグマの長い爪跡や点状に残った爪跡を何度も見つけていました。そしてその長い爪跡もきつと登るときについたに違いないと思っていましたが、実は頭から下りるときにズズッと滑りながらブレーキをかけたときにつくののだということを初めて知ったのでした。

今まで述べてきたように、ツキノワグマの春先の重要な食物の一つはブナや、ミズナラの新

芽です。それと共にこれらの樹木の堅果、つまりドングリやブナの実も春に最もよく食べられる食物です。3月末から4月はじめにかけて冬眠穴から出てきたクマは、残雪の消えた斜面で、前の年の秋に落ちたこれらの実を枯葉をかき分けては探して食べるのです。春たけなわになり、沢筋や雪崩跡などの斜面に色々な緑色草本が出現してくるとそういった場所に移動して各種の草の柔らかい芽や時には根を食べるようになります。それらはアザミ類、シャク・シシウドなどのセリ科草本、ウワバミソウ、フキ、イラクサ、ザゼンソウなどがおもなものです。チシマザサの生育する多雪地帯ではそのタケノコもしばしば食べられます。季節が進んでくると、ウワミズザクラやキイチゴ類などの漿果類が前述の草本類に加わって重要な食物になってきます。またこの時期にはアリヤスズメバチなどの社会性昆虫がメニューに上ってきます。夏の林内や若い造林地を調べると、クマがアリの巣を食べるためにこわした腐った木の切株がしばしば見つかるようになります。これらの昆虫はツキノワグマの数少ない動物性食物の一つです。

秋は、クマにとって来るべき冬眠に備えて栄養蓄積の時期でもあります。前述のブナやミズナラに加え、クリ、コナラ、タカノツメ、ヤマボウシ、ミズキ、アズキナシなどの堅果、漿果類を大量に摂取するようになります。クマが木の上で枝を折ってこれらの実を食べた跡が鳥の巣のようにみえます。これをクマの「円座」あるいは「棚」とよび、



コナラの木の“円座”

遠くからでもよく観察されます。クマが最も好むブナやミズナラ、コナラ類は結実の度合が年によって大きく変動するので、これらの実が不作の年には他の樹種の割合が高くなるようです。時には人里に出没して農家の庭先のカキやクリ、ミカン、時にはイネまでも食べることがあります。この現象は単に木ノ実類の不作といったことだけでなく、広葉樹林がどんどん伐採されてスギ、ヒノキといった単純な針葉樹造林地に置き替わってしまったことにも原因があるようです。

山が根雪に覆われる11月下旬から12月にかけてクマは大木の中にできた樹洞を冬眠穴として長い越冬生活に入ります。妊娠した雌はこの冬眠穴の中で、真冬に1〜3頭の仔グマを出産します。

ヒグマと違って自分で穴を掘らないツキノワグマは樹洞ができるような大径木がなくなると越冬そのものが困難になってくるのです。ただほとんど雪の降らない地方、例えば紀伊半島南部のクマは冬眠しないといわれ、事実今年の一には和歌山県で数例のクマの目撃例が報告されています。

ツキノワグマは春から夏にかけて、樹液の動きが活発になるころスギやヒノキの皮を剥いで形成層をかじることもあります。これはいわゆる「クマ剥ぎ」というもので、せつかく造林したスギ、



クマ剥ぎ

ヒノキを痛めてしまうため林業関係者に嫌われる大きな原因になっています。しかしなぜクマがこの時期にこれらの木をかじるのかその原因についてはまだはっきりしていません。このクマ剥ぎを未然に防除するために、

いわゆる有害鳥獣駆除といって猟期以外におもにオリを使用しクマを捕獲することがこれまで全国各地でおこなわれてきました。例えば紀伊半島で捕獲されるクマの7割以上がこの有害駆除によるもので、地域によってはこれが生息数減少のひとつの大きな原因となっています。ようやく最近になってこのオリによる捕獲を自粛もしくは禁止しようという動きが出てきました。

九州ではすでに絶滅してしまったツキノワグマですが、現在四国も非常に危機的状況にあります。それに次いで、中国地方も広島県と島根県の県境付近などごく一部でしか生息が見られず、また紀伊半島も推定生息数が200頭前後といわれて各地で生息域の孤立、分断縮小が進行しています。こういった地域では人間とクマの共存の道を探ることが急務となっています。そのためには駆除の見直しも含めて生態や生息実態の科学的な調査の推進と、針葉樹一辺倒になってきた日本の森作りのあり方を問い直すことが今何よりも必要なのではないでしょうか。



麻醉からさめはじめるツキノワグマ

動物園の教育活動、 環境教育をめざして

§ 定着してきた動植物園教育委員会の活動

レクチャールームが完成した昭和60年3月30日に第1回目の活動を行なった動物園教育委員会(平成元年の動物園と公園の管理一体化後、動植物公園教育委員会と改称)は、レクチャールームが完成したもののずっと空けておくのではもったいないということで、職員の間で自主的に委員を選出し活動を始めたのが始まりでした。毎月第3日曜にスライド会を行なうようになり、「動物園のおじさんのお話」として入園者の皆さんにも定着してきました。スライド会は回を重ねて、今年の12月で91回目を迎えました。

当初月1回実施するのが精一杯でしたが、今では春と秋のフェスティバルでの屋外ステージ活動も含め、企画にはそれ程心配しなくてよいようになりました。これがほんとうに教育活動か、サービス事業なのか区別のつかない催しもありますが、動物園の行事の中で今ではかせない位置をしめるようになってきたと思います。同時に、公園エリアでの独自の企画も実行できるようになり、これも定着してきました。天王寺公園は典型的な都市公園ですが、歴史のある慶沢園という庭園と自然度の高い茶臼山も含めると、活動できる内容は豊富です。動物園以上に質の高い教育効果をあげ



ツリーウォッチング
子供たちも真剣に参加していました。

られると思います。慶沢園で開催された樹木あてクイズでは予想以上の反響があり、真剣に参加している人々の姿は印象的でした。

§ 新企画ビンゴDEガイド

動物園でぜひ実践してみたかった一つにガイドツアーがあります。私は何回か、動教委の活動とは別に団体をガイドしたことがあります。教科書的な動物の説明だけではなく、個々の動物の飼育状況や、個体についての解説などを行いながら園内を案内しました。裏話的なものにはどんな分野においても人々の興味をひくものですが、気をつけなければならないのは、単にのぞき見趣味を満たすだけに終わってしまい、正しく動物の本質を伝えない危険性がありうるからです。

今回、ツアーガイドを実施するにあたって以前から参考にしていただいていたプログラムがあります。平塚



環境教育フォーラム報告書

市博物館学芸員浜口哲一氏が考案された、ビンゴゲームを応用した自然観察の手法です。清里環境フォーラムの報告書に紹介されています。この報告書には、全国各地で実践されている様々なプログラムや研究報告、指導者育成などの環境教育の事例報告が盛り沢山にあふれています。実践者の創意工夫がみられ情熱がよむだけで伝わってくるようなものばかりです。残念ながら博物館からの報告はいくつかあるのですが、動物園での事例報告はまだありません。私はこのビンゴゲームを応用して動物園をガイドするプログラムにアレンジしてみました。方法はいたって簡単です。3×3の9マスの入ったシートと鉛筆それとマーカーペンを参加者にもってもらいます。次に9つマスの一角に好きなように1~9の番号を記入してもらいます。9つのマスの場合は9ヶ所の動物舎を案内しその

動物に関係する問題を到着する前にだします。問題は自分の目で確かめ自己採点できるような問題にします。正解ですとその番号のマスをぬりつぶすわけです。その間にその問題の解説やその動物についてガイドを行うという方法です。参加者はビンゴゲームを楽しみながら、同時にガイドを受けることにより一方的に受身になることはならないのもいい方法だと思いました。9ヶ所を8ヶ所にして1つはサービス問題として誰でも解答できる簡単な問題にすることによりビンゴの数が増え、喜んでもらえるようにします。8ヶ所を回っても時間的には40~50分位しかかかりません。丁度いい時間だと思います。今回は1組20名で3組まで募集して、約60名、家族連れやカップルの参加がほとんどでした。出題した問題は次のようなものです。



ビンゴDEガイドの受け付け

- タンチョウの頭の赤い色は羽根が赤い
- フラミンゴには水カキがある。
- チンパンジーに尾がある。
- ニホンザルの尾の絵を書いて下さい。

途中でヒントをだしたり、ひっかけたり、アドリブを加えながら進めます。ビンゴができていくにつれ結構真剣に耳をかたむけていただけです。参加者の反応により解説の内容のレベルも考慮する必要がありますが、ガイドする方も楽しくできたと思っています。ビンゴDEガイドは、委員の間で予行演習もしましたし、サマースクールでも一度行って行っていましたので自信はありましたが、本番でも予想以上の反響がありどうやら定番になりそうです。コースを変えたり、たとえば鳥類だけにすとか、あるエリアだけにすとか、テーマ別にガイドする方法なども考えられます。学校などの団体にぜひ応用して使ってもらえるとうれしいのですが――

§ 環境教育をめざして

環境教育という言葉はまだまだ一般的には普及していないかもしれませんが、最初に書きましたように、博物館・学校・公民館・消費者団体、自然保護団体等、様々な組織ですでに実践活動がされています。環境教育は人間社会のくらしのあり

方、個人個人の生き方に係わる壮大なテーマです。エネルギー問題、ゴミ問題から自然環境の保全から発展途上国の援助のあり方も含め多方面に広がる分野に関係すると思われれます。動物園が環境教育の場だと言われますが、はたしてどうでしょうか。動物園教育の対象はどちらかといえば、幼児や低学年の児童に動物を触せるとか、抱かせる等いわゆる“ふれあい”効果による情緒教育情操教育について多く実践されてきたのではないかと思います。動物園での主役である野生動物はその分野には、人工哺育された動物以外には貢献することはあまりありません。動物園における環境教育を考えた場合、可愛い動物ではなく、威厳を感じさせる、風格ある野生動物にその出番を与えられるでしょう。様々な自然環境に生きる、多様性あふれる野生動物の姿こそ動物園でしかできない環境教育に生かすことができるのです。野生動物達を通し、それらが生息する自然環境を理解する手がかりを入園者に与えることができる、単に動物だけを見せるということだけでなく、生息環境を再現させた中での展示方法があつて初めて環境教育につながるのだと思います。都市に住む多くの人々が、野生動物を初めて観る機会は動物園です。いわば野生動物との原体験は動物園にあるということになるわけです。そこで受けた印象や感じたことは非常に大きな意味をもち、その後の動物観、自然観に影響を与えるかもしれません。

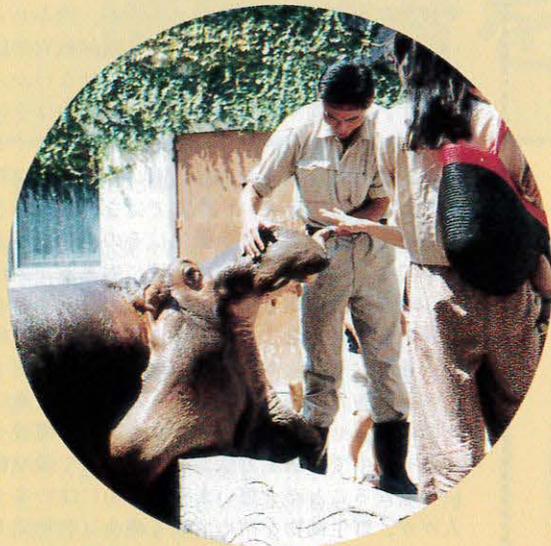


カンガルーガイド
動物舎でのワンポイントガイドでした。

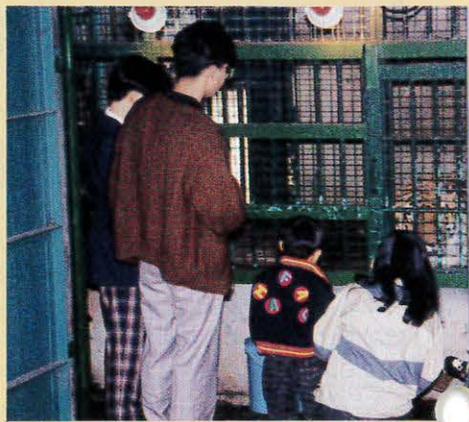
しかし、生態的展示ができないから環境教育ができないということではありません。野生動物の形態や行動をよく観察することにより、彼らの生態や生息環境を理解することも十分可能です。解説版やガイドがそういう意味で環境教育活動に手助けを発揮することができます。

環境教育をめざして様々な工夫を行うとともに一人一人が環境問題について自己学習することが動物園における環境教育の第一歩になるでしょう。(8、9ページ・グラフZOO参照)

(飼育課：大野 尊信)



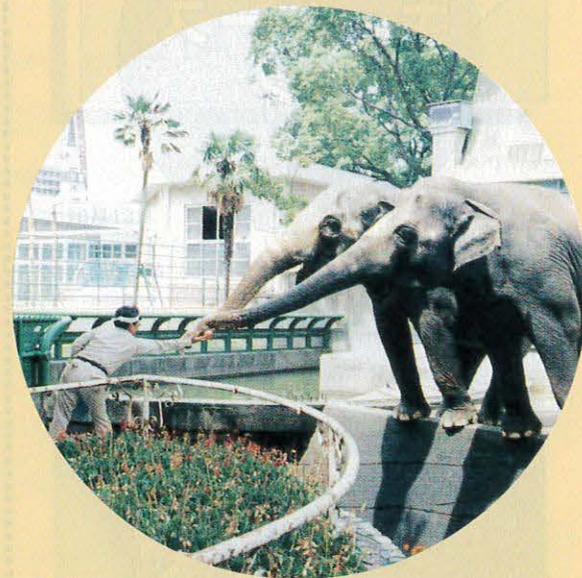
カバのふれ愛ガイド
カバの口は大きくて、皮膚も固いんだぞ～。でも、水をかけてあげると大喜び！



トラのふれ愛ガイドー寝室特別大公開ー
普段見られないトラの寝室、真近で見るとすごい迫力だよ。



バードウォッチング
毎年2月に行なわれる恒例のバードウォッチング。鳥の楽園(バードケージ)にいる約60種類の鳥の内、あなたは何種類の鳥がわかりますか？



ゾウのふれ愛ガイド
子供に人気のゾウさん。長い鼻を操って器用にリンゴや乾草を食べる姿がかわいく、スイカも上手に割りますよ。

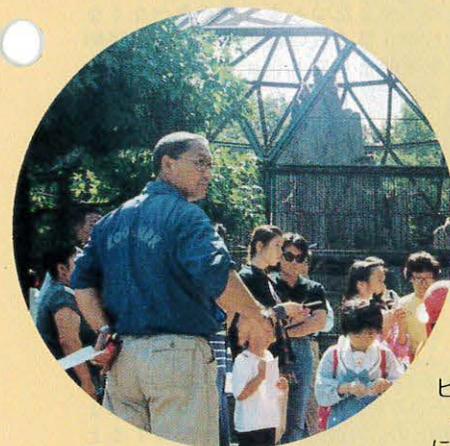
グランドZOO

動物園のおじさんのお話

動物園での教育活動の一環として毎月第3日曜日に「動物園のおじさんのお話」を行っています。飼育係員の飼育体験や動物の特徴などやさしくお話していますので、入園者の皆様に大好評。今回は、屋外で行なわれたものをピックアップしてみました。



動物園裏側ウォッチング
毎年12月に行なわれる大好評の動物園裏側ウォッチング。普段、見ることができない動物舎の中へ。参加者は皆、興味津々です。

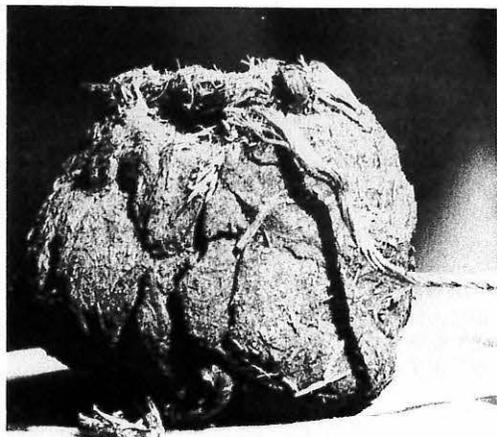


ビンゴ DE ガイド
クイズをしながら園内ガイド。「チンパンジーにシッポがある?」「ニホンザルのシッポはどんなかたち?」など普段なにげなく見ている動物達の姿を再発見。



キーパーズ アイ

☆餌を与之ないで!!



動物は、愛敬があるもので、お客様もいろいろな動物の前で足をとめて、見入ってしまうものです。見入っていただいているだけなのですが、ついつい動物達にお菓子を与えてしまいます。そのために、動物が腹をこわしたり、病気になるものもいます。中にはお菓子袋のまま投げこむ人もいます。先日、ゾウの運動場を清掃していると、糞の中からビニールのヒモがからまって出てきました。ゾウが食べてから糞となって出てくるまで、約4～5日かかります。ゾウの場合糞にからまって、出てきてくれますが、胃が4つあるウシ科の動物では一番大きな第一胃に消化されずにとどまりそれがつまって、死亡するケースが、たまにあります。以前に、ダマシカが食欲がなくなり好きなエサを持っていても、ほしそうにしますが食べてくれず、徐々にやせていって、ついに死亡してしまったことがありました。死因を調べるための解剖をしたところ、胃の中から大量のビニールが出てきました。風に乗ってきたのか、それとも…。動物はかわいいものです。一日でも長く生きられるように動物園の職員もガンバっています。かわいいから、ほしがっているからというだけで、エサを与えないでください。これは、飼育係からの心からのお願いです。

(飼育課：土谷正道)

☆一羽のアマサギの死



私は今年の8月1日に採用された新人の飼育係です。今、キジ舎と動物病院の担当です。動物病院には、毎日のごとく病氣やけがで動物園の動物が運びこまれてきたり、又、市民の保護した野生のドバト、ヒヨドリ、ゴイサギ、タヌキなどが持ち込まれます。私はその動物たちの世話をしています。先日、アマサギという野鳥が、保護され病院に持ち込まれました。最初はアジをエサとして与えていましたが、少したつとまったく食べなくなり、そういう日が5日ぐらいいつきました。獣医師に相談すると生き餌としてドジョウをやってみるよう助言されました。与えてみるとわずかですが食べてくれました。しかし、翌朝、アマサギは死んでいました。寿命が過ぎて死ぬならともかく、自分の責任で、死なせてしまったことが悔やまれます。もう少し早くドジョウを与え始めていれば助かったのかもしれない。ケガや病氣をした動物が治り、自然に帰す時の喜びとさびしさを短かい期間ですが何回か経験しました。私はなんとかこのアマサギを救ってやりたかったのです。私は、今回のことは飼育係として一生、忘れることがないでしょう。動物は人間と同じだと思います。それぞれ異なった性質や特有の行動様式を持っており、飼育係はそれらを踏まえて、飼育しなければなりません。動物との心の通い合いこそが飼育する上で、大切であるということを私は忘れたくありません。

(飼育課：西田雄之)

10月1日 ボイラーの火入れ式が行なわれました。寒さに弱い動物たちが、暖かく冬を過ごせるように、毎年10月はじめから翌年の春の5月ごろまでの間動物舎に暖房をいれて厳しい寒さから動物を守っています。例年どうり今年も10月1日から暖房をはじめましたが、動物の健康とボイラー操業の安全を願って火入れ式を行いました。



10/5 アルダブラゾウガメを夏の間、カモシカ園で日光浴させていましたが、外気温が低下してきたため、暖房されている爬虫類舎に戻しました。

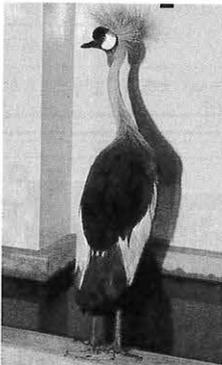
10/6 タンチョウのオス1羽を、イギリスのウィップスネイド動物園に贈りました。



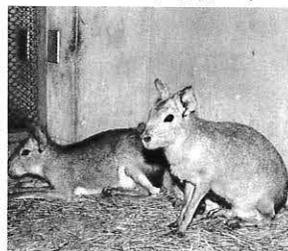
オウサマペンギンが1羽ふ化しました。ふ化日数は55日でした。今年2月と3月に産卵がみられましたが、ふ化までにはいたりませんでした。今回繁殖に成功したのは3月に産卵したペアで2回目の産卵がこのペアにとって初めの繁殖となりました。

10月7日 ホオジロカンムリゾルのオス1羽を

秋田市大森山動物園のご好意でいただきました。本種は以前よりペアで飼っていますが、折り合いが良くないためか、この十数年繁殖はみられませんでした。この度同園のご理解を得て譲っていただいたものです。

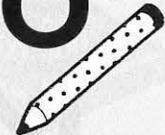


マール3頭を神戸市立王子動物園のご好意でいただきました。かつては当園でも飼育していましたが、昭和57年に最後のマールが死亡してからは展示していませんでした。この動物は嚙歯類の中では最もウサギに似ており足の長



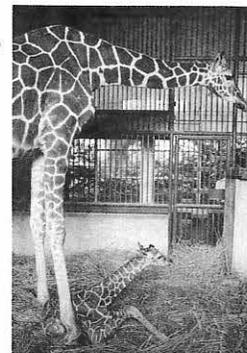
今月もおもしろ情報満載

ZOO DIARY



い特異な体形をしています。南アメリカのパンパスや岩の多い荒れ地にすんでいます。

10月13日 アミメキリンの“ハルミ”が、メスの赤ちゃんを1頭生みました。



ハルミは、昭和61年に2歳で来園して以来2回目の出産で、初産は平成2年のオスの子の出産で無事に成育しました。今回の出産は前回同様、開園後の10時25分に生まれました。1時間後の11時24分にはもう起立し歩きだしました。

タンチョウのオス1羽をフランスのフォンテン動物園に贈りました。

10/14 バーバリシープが発情期に入り、オス同士による角突きあいがよくみられるようになりました。

10/18 “秋の動物と花のフェスティバル'92”が開幕し、様々な催しものが11月8日までの日曜、祝日に開催されました。

第89回動物のお話とスライドの会で「動物のエサのお話」をしました。

10/19、13日に生まれたアミメキリンの赤ちゃんをはじめ屋外放飼場に出しました。

10/22、ホッキョクグマの出産のための隔離準備を行いました。

10/27、フクロウを1羽保護しました。

10/30、ワニガメ3頭の爪切りを実施しました。

☆テレホンサービス：771-9999

☆お知らせ

●動物園のおじさんの話「動物園裏側ウォッチング」
日時：12月13日(日)午後1時～2時
場所：動物園内レクチャールームに集合し、要領説明の後、園内をまわります。

●お正月行事
カレンダープレゼント1/2・3
もちつき1/3 午後1時
映画の会1/2・3 午後1時～2時

●トリの郷土玩具展
期間：1月2日(土)～2月11日(祝)
場所：展示館

●年末年始の休園日のお知らせ
12月29日(火)～1月1日(祝)

愛ある暮らし、応援します。

Kintetsu

近鉄百貨店

DEAR LIFE BOOKS



生態・飼育・図鑑が一つの本の 中にギッシリ

中川道朗・岩合徳光/監修
B5変型判・オールカラー
定価600円

動物園で暮らす様々な生き物達、
自然の中ではどんな暮らしをして
いるのか？ 動物園での世話
の仕方は？ 仲間とは？ など、
写真と精密イラストをまじえ紹
介します。

くらしといかたシリーズ<既刊本>
B5変型判・オールカラー・各定価580円

むしくらしと いかた

野山でみかける身近な昆虫たち
250種を紹介。

ちいさないきもの くらしと いかた

昆虫以外の小さな生き物を320
種紹介。

お求めは、お近くの書店で。 ひかりのくに株式会社 本社/〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表



マスタのポップコーン



<営業品目> 製造機械・保温機 他
生コーン・袋詰ポップコーン・原材料一式

(株)増田食品 〒561 大阪府豊中市穂積1-10-30
TEL (06) 865-0165

オートフォーカスカメラに

フジカラー SUPER HIG 400



ピントが合いやすいフィルムです

カメラの大林

桜橋本店 ☎341-8091
阪急三番街店 ☎372-5031
OHVAC店
(ギャレ大阪) ☎346-7606

全国の愛犬家の共感を呼ぶ無比の愛犬歌集

絶賛四版

歌集 犬の歌

平岩米吉著

著者が、約四十年の間に、共に暮らした七十余頭の犬の生と死
を歌った四百十九首を収録。同時に、その誕生より老齢に至る
写真四十七図を収めた、犬の一生の生態写真集でもある。

天金・美装箱入
B6判・270頁
3000円・〒不要

《感動の言葉》

- ☆ この歌は愛犬と異体同心の境地である。(英文学者)
- ☆ 人として注ぎ得る愛情の極致を示している。(動物研究家)
- ☆ 一首ごとに、ことごとく魂にひびく歌です。(動物愛護家)

●本書は、書店ではお買い
求めになれません。
直接当会へお申し込みく
ださい。

〒152/東京都目黒区自由が丘3-12-2 動物文学会 電話(03)717-1659/振替・東京5-9800

新作

貸出用ビデオ「楽しい天王寺動物園」
19分(10本常備)

- 対象/保育園・幼稚園・小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸出料/無料(但し郵送料480円は必要)
- 申込先/当協会まで手紙かハガキで
お申込下さい。

天王寺動物園の本

入園の記念・手引に……

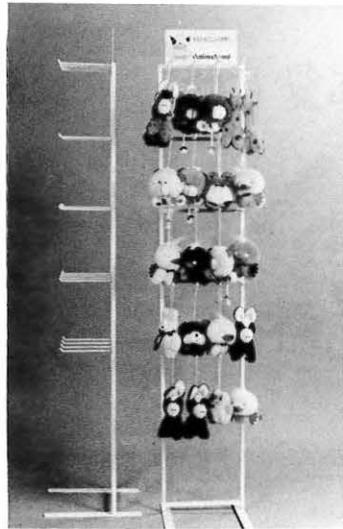


コアラテレホンカード(限定販売)
好評発売中 ¥800(50度用)

オールカラー
500円

園内売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会 〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

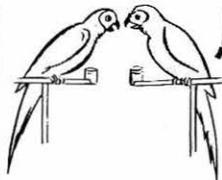


動物ぬいぐるみは 子供のゆかいなお友達

各種ぬいぐるみ企画・製造・卸

有限会社 **アニメランド**

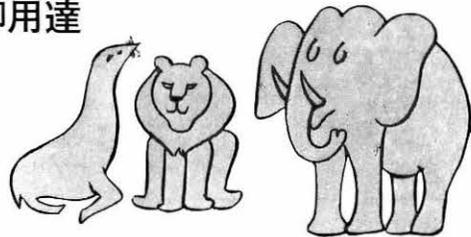
〒547 大阪市平野区西脇4丁目5番22号
TEL: (06)704-8580
FAX: (06)704-8565



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円



有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話(078)221-8195(代)

たのしい動物のお話は、 ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数カ所にあります

関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回 20円

動物園内での お食事、 ご休憩は



動物園内.....

中央売店

TEL 06-771-0973

お食事・飲み物・おみやげ 動物園内
南園売店 TEL 06-771-7110



園内での写真は... 動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機して
おりますのでご説明
に伺いました際は、
よろしくお願ひ致し
ます。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせて戴きます。
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社
TEL 06-856-7444



Our Yogurt has fruity
and rich texture!!

“生イキヨーグル”と
覚えてね。



「ほりたてミルクのおいしさが、生きている。」

雪印
ヨーグル

希望小売価格 130g/各120円 250g/各220円(税別)



HUJIRI-KOJIMA

一日
愉快地
たのしめる!!



◎園内3ヶ所(南園高架下・北園中央デッキ北側・北園高架下)に各種のりものがあります。

久竹娛樂株式会社
TEL(06)541-3938(代)

なきごえ 1992年12月10日発行(毎月10日発行) 第28巻 第12号 (通巻328号)

編集/大阪市天王寺動物園事務所

発行人/大阪市天王寺動物園協会 土井良彦

印刷所/株式会社 松村善進堂 定価150円(送料共) 1年継続(12部) 1,650円(送料共) 振替口座 大阪3-3 7 8 2 3

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74

電話 大阪 (06) 7 7 1-0 2 0 1

編集委員 (中山良三郎/村上 昭/中尾啓一/樽本 勲/中川哲男/吉本昌俊/山根和弘/大谷直樹/宮下 実/長瀬健二郎/榊原安昭)
森本委利/竹田正人/永田健一/前田 茂/大野尊信/野口秀高/早川 篤/堀内智生/大川光雄/土谷正道/山元貞幸)